

京都大学文学部博物館所蔵 ポルトラノ型地中海図に関する一考察

夢 田 祐 子

I. はじめに

II. ポルトラノ型海図の特徴

III. 京都大学文学部所蔵「地中海図」の特色

IV. 「地中海図」に記された地名

V. 「地中海図」の作成年代

VI. おわりに

I. はじめに

ポルトラノ型海図とは、方位盤 compass rose とそこから放射状にのびる航程線 rhumb line が織りなす幾何学紋様をもって特徴的な、中世を代表する海図である。羊皮紙などに描かれたこの海図は、14~16世紀にかけて地中海沿岸地域において大量に生産さ

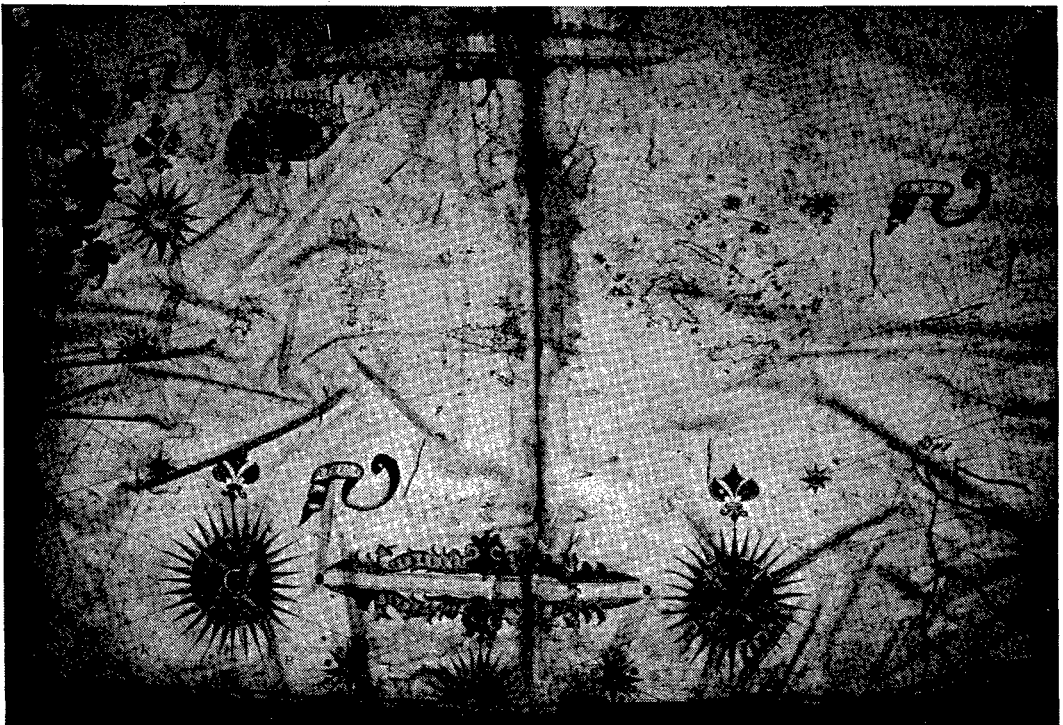


図1 ポルトラノ型地中海図 (「京都大学文学部博物館」所蔵)

れ、地中海の航海者に重宝されたものである。中世においてはキリスト教的世界観に基づくマッパエムンディ mappaemundi も重要な地図であったが、ポルトラノ型海図とマッパエムンディとはその性質を全く異にする。すなわち、マッパエムンディは「^{バイブル}聖書」の記述内容をも表現した地図であって現実離れた部分も見られるが、これに対して、ポルトラノ型海図は地中海の実情を知り得る限り正確に表現した、航海者にとってはまさに「^{バイブル}」に相当する地図であった。

ところで、ポルトラノ型海図は海上で使用されただけではない。航海の際に航路を決める指標となったことはいうに及ばないが、陸上においても有用であった。すなわち、ポルトラノ型海図は、その特徴である方位盤や航程線網が織りなす幾何学紋様と、彩り豊かな地図内容とがあいまって、美術品・装飾品としても高く評価され、船主や豪商の注文を受けて製作された¹⁾。よって需要も多く、かなり大量に生産されたと考えられる。そのため今日、欧米各地の公的機関などによって所蔵されているポルトラノ型海図も少なくない。

ポルトラノ型海図はわが国にも若干の点数がもたらされているが、京都大学文学部博物館にそのうちの2葉が所蔵されている。うち1葉は地中海全域を対象にしたもの(図1)であり、他の1葉はエーゲ海を扱ったものである。筆者はヨーロッパにおける地図発達史にかねがね興味を抱くものであるが、いまだ本格的には取りあげられていないこれら2葉のポルトラノ型海図を閲覧する機会をもった。本稿では、そのうち地中海全域図(第Ⅲ章以下、「地中海図」とする)を対象とした考察の結果を述べる。

II. ポルトラノ型海図の特徴

ところで、ポルトラノ型海図には、ほぼ共通して次のような表現上の特徴がみられる。

(1)まず、従来の地図にはみられない表現としては前記の航程線網がある。航程線は幾つかの箇所て収

束し、またそこから分散する直線であり、相互に複雑に絡み合っている。航程線が収束する点は一見乱雑に打たれているようにみえるが、中心の一つと、それを中心とした円周上にあたる場所に16、併せて17点を数えることができる。これらの収束点には、しばしば美しい図柄の方位盤が描かれており、これらの方位盤からそれぞれ等間隔に32方向へ放射する32本の航程線が方位を指し示している。なお、方位盤は羅針盤をモチーフにして描かれているが、中には見事な装飾を施したものもあり、ポルトラノ型海図の最も魅力的な特徴をなしている。また、色分けされた航程線は、方位の判断を敏速・確実にするためのものであった。

(2)海岸線の形状は、特に地中海・黒海についてはかなり正確で、現代の地図と比較してもそれほど遜色がない。ウッドワード(D. Woodward 1985)の研究によると、マッパエムンディの代表であるヘレフォード Hereford 図(1290年頃)の海岸線と、ほぼ同時代の代表的なポルトラノ型海図の一つペトルス・ヴェスコンテ P. Vesconte 図(1311年)の海岸線との比較においても、後者の正確さ是一目瞭然であるとされる²⁾。製作目的が異なるこれら2系統の地図を比較することに若干の問題はあろうが、教会関係者(陸上生活者)の空間認識と、海上生活者の空間認識との間には相当の隔たりがあった事実是否定できない。

(3)ポルトラノ型海図では、海図という性格上当然であるが、海岸線沿いの地名は隙間なく詳しく書き込まれている。一方、内陸部については、現代の海図と同様、航海と直接関係がないために地名はほとんど見られない。また、海岸線沿いの地名の数は、同縮尺の現代の海図のそれに比べてはるかに勝っている。地中海で当時主役だった手漕ぎのガレー船の航海能力では、頻繁に沿岸の各地に寄港する必要があったのがその理由である³⁾。

ところで、多くのポルトラノ型海図においては地名の記入に当っては黒・赤の2色が使分けされている。大部分の都市が黒インクで記されているなか

で、赤インクで示された地名は、当時の主要港および主要都市を意味していた。すなわち、赤色で示された地点に寄港すれば、より容易に食糧やその他の物資の補給を受けることができたのである⁴⁾。

(4)現代の海図とは異なる特徴として、ポルトラノ型海図には「水深」に関する指示がない。それに代わって、海底の情報をユニークな表現記号で伝えている。すなわち、沿岸海域のところどころには岩礁の存在を示す点描がみられ、また、同じく沿岸に散りばめられた赤い小片は浅瀬の存在を指示している⁵⁾。航海上の危険は大海原よりもむしろ港を間近にした港湾内にあるともいわれるが、これらの記号は、港と目と鼻の先の海域での海難事故を警告する意図で描かれたのであろう。事実13世紀初めのフランスには、船の喪失の原因が航海者にあると認められた際には、その者を死刑に処すという法律⁶⁾があり、航海者には海難回避に関するかなりの専門的な知識が要求されていたのである。

(5)ポルトラノ型海図には、地図の記載内容が航海に必要な海岸部に偏る傾向があったなかで、ほとんどそれに徹する形式のものと、内陸部にもその空白を避けて装飾的な図柄を描入する形式のものがあった。これらの形式は、それが主として製作された地域と関連づけて、前者はイタリア型、後者はカタロニア型と呼ばれる。端的に言うと、イタリア型が海上での実用性をより強く志向していたのに対して、カタロニア型は、1375年に製作されたカタロニア図 Catalan map⁷⁾に代表されるように、陸上での使用目的、たとえば装飾としての使用にむしろなつたものであった。なお、イタリア型とカタロニア型の製作者の間で情報交換が行われた結果、14世紀の後半にもなると、どちらにも属さない融合型とでもいうべきタイプが出現する⁸⁾。

Ⅲ. 京都大学文学部所蔵「地中海図」の特色

「地中海図」の全般的な特色は次の通りである。

(1)「地中海図」は縦52.5cm×横72.0cmの大きさ

の一枚の羊皮紙⁹⁾に、地中海を中心とする地域が描かれている。その範囲は、西は地中海西端(ジブラルタル海峡付近)にはじまり東は黒海(東部を欠く)・小アジアにまで及ぶ。この海図は二つ折りにされる機会が多かったためか、図の中心部分に上下に、すなわち南北方向に折りぐせによる染みが生じている。そのため、特に図の中央に当たるイタリア半島の南部は、海岸線・地名ともにほとんど判読不可能である。また、そのほかにも、用いられたインクが羊皮紙の色に同化・退色した結果、とりわけ海岸線は復元しがたい箇所も多い。

(2)黒インクで描かれた海岸線の形状についてみれば、一言でいって、今日われわれが認識している地中海の輪郭がほぼ正しく表現されている。もちろん、微細にみれば、コルシカ島・クレタ島・キプロス島などの形状は幾分いびつであり、マグリブ地方東部(今日のチュニジア)の海岸線の北への膨らみなどもやや異常である。ただ、この程度の歪みはポルトラノ型海図においてはむしろ常態であり、また、他のポルトラノ型海図との類似関係からすれば、筆者の知る限りでは1601年のクレッセンティオ Crescentio 図¹⁰⁾の海岸線の形状に酷似しているといえる。

(3)図2(トレース図)にも示したように、海岸線から内陸に向かっては、それに対してほぼ垂直に、紺色の太い線の切り込みによって数多くの河川が描かれている。それらの河川名の書き込みはないが、ヨーロッパ側の河川は、西から順にまさしくエプロ川(a)¹¹⁾、ローヌ川(b)、ヴァール川(c)、アルノ川(d)、テヴェレ川(e)、ネルトヴァ川(f)、ヴァルダル川(g)、ドナウ川(h)である。しかし、アドリア海北部に注ぐ河川は限定しがたい。これに対してアフリカ側は、西からムルヤ川(i)、ナイル川(j)が同定できるが、今日のチュニジアからリビア北岸に描かれた4本の川はいずれとも決しかねる。あるいはワジを恒常河川として表したものかもしれない。また、小アジアからレヴァント地方にかけてはセイハン川(k)、ジェイハン川(l)、オロンテス川(m)

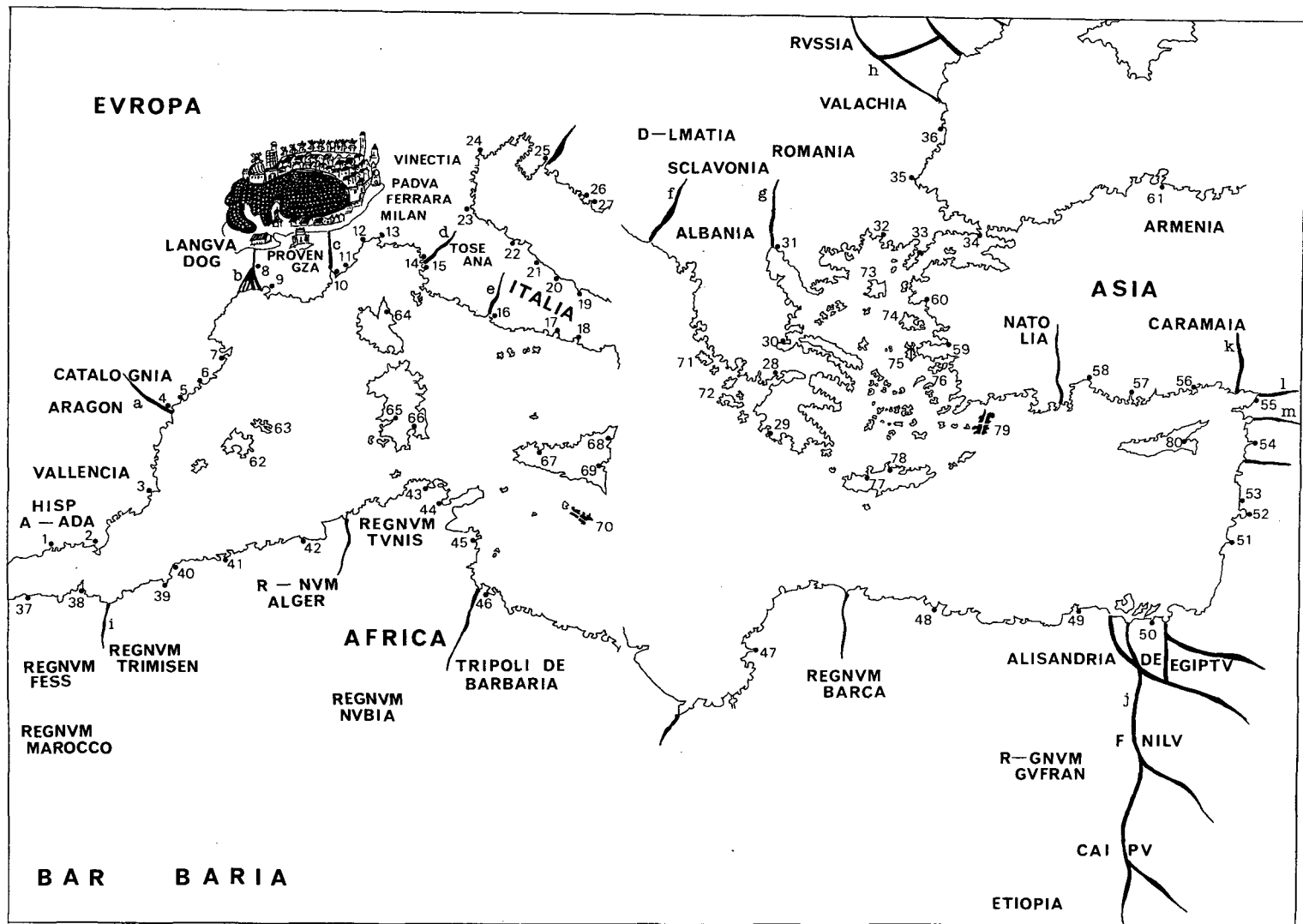


図2 「地中海図」(トレース図)

などが確認できる。なお、ちなみに河川の描写法に関していえば、「地中海図」のそれは、フランシスコ・オリヴァ Francesco Oliva 図(1603年)¹²⁾にも類似している。

(4)「地中海図」では内陸部についての情報はほとんど示されていない。しかし、方位盤や海図の縁飾りなどは適度に描かれており、装飾的表現を全く欠いたイタリア型とも断定できない。また、「地中海図」の装飾的表現は、カタロニア型ほどの華やかさを備えてはおらず、結局「地中海図」は、先述のイタリア型とカタロニア型の融合型に分類することができる。

(5)「地中海図」では装飾的な方位盤が併せて14個描かれている。とりわけ、左上の一つと下部の二つの方位盤はその上部に「とさか」のような飾りを付けている。このとさかはフランス王家の紋章である「ユリの紋章 Fleur de lis」を示すものとされており、カタロニアやポルトガルで作成されたポルトラノ型海図に一般的にみられる表現である¹³⁾。

(6)数少ない内陸の記載の中でひときわ目を引くのは、南フランスの一隅に描かれた、ある一つの都市の鳥瞰図である。内陸部の都市の鳥瞰的表現はカタロニア型の表現上の特徴であるが、「地中海図」では唯一、南フランスの一都市が描かれているのが興味深い。後述のように、筆者はこれをマルセイユであるとみている。

IV. 「地中海図」に記された地名

ポルトラノ型海図の例にもれず、「地中海図」にも沿岸部を中心に多くの地名が記されている。ただ残念ながら、黒インクで記された地名のほとんどは、長い年月を経るなかで湿気のために生じた染みやにじみのために判読不可能となっている。かろうじて、赤インクで書き入れられた地名は同じ条件下でも判読の可能性が高い。筆者は主として赤インクの地名の判読を試みたが、その結果は表1～4のとおりである。なお、表1～4では、「地中海図」の地名を、

他のポルトラノ型海図の地名や現代地名と対照してみた。比較の対象としたポルトラノ型海図は、本稿の第V章で推定する「地中海図」の製作年代に基づき、ポルトガルの装飾的地図製作者 D. オーメン D. Homen の地図帳(1561年)収録の海図、ヴェネツィアの地図製作者ミロ A. Millo の地図帳(1586年)、16世紀後半のカタロニア型の製作者マルティネス Martinez による図(1591年)、およびイタリア型の製作者ヴォルティウス V.D. Voltius による図(1592年)である。また、代表的なポルトラノ型海図であるカタロニア図(1375年)も参考としてこのなかに含めた¹⁴⁾。なお、表1～4中の..は判読不可能な文字の意である。

以下、主要な地名について地域別に説明したい。

(1) ヨーロッパ

「地中海図」の西端はジブラルタル海峡付近から始まっているが、染みとしわのため沿岸部の地名はほとんど判読不能である。内陸部には、VALLENCIA(ヴァレンシア)、ARAGON(アラゴン)、CATALOGNIA(カタロニア)などの地方名が記されている。沿岸部の地名では赤インクで記された *malica*(マラガ、図2中の番号1、以下同じ)が判読しうる。その東に、同じ地名が黒色で繰り返されているのは、航海の際に目印となるマラガ岬を示すものであろう。さらに東には、*almaria*(アルメリア、2)、*ualensia*(ヴァレンシア、3)、*taragona*(タラゴナ、5)、*barsalona*(バルセロナ、6)などの赤色地名が判読でき、また、都市の規模があまり大きくない..*tosa*(トルトサ?、4)や *rosas*(ロサス、7)も、岬や湾といった特徴となる地形を備えているためか赤色で記されている。

フランスでは、内陸部に LANGVADOG(ラングドッグ)や PROVENGZA(プロヴァンス)の地方名がみられ、さらにローヌ川ないしはヴァール川の流域部に、先述の都市の鳥瞰的描写がみられる。その位置からみてこの都市はアルル、アヴィニョン、マルセイユのいずれかであろうが、当該の都市はマッシリア(現マルセイユ)であろうと筆者は考える。

紀元前6世紀、ギリシアの植民地として建設され

表1 ポルトラノ型海図に記された都市名(ヨーロッパ)

カタロニア図 (1375)	D. オーメン図 (1561)	ミロ図 (1586)	マルティネス図 (1591)	ヴォルティウス図 (1593)	「地中海図」 (16c 後半)	現在の地名
mont gibeltar MALICHA	GIBRALTARU MALICA	GIBILTARA MALACHA malia lis	mgibaltar MALEGA cde malic	mgibiltera MALICA cmanduca	MALICA malica SALAMBRA	1 Gibraltar Málaga Pta Melonar ? Pta del Sabinal ?
SERAUIGNA ALMERIA cap de pals VALLENCIA tortossa TERAGAONA tamarit BARCELLONA roses nerbona cap de seta ARLES MASELA ANTIURI nisa monago ALBENGANA NORI SAONA IANUA PISA	SELLINNA ALMATIA c.de pali UALENCA TORTOSA TARAGONA BARCELONA NARBONA m.de ceta ARLES MASILIA ANTIURI nisa MONAGO ARBENGA NORI ONNA GENOA PISA LIGORNA PROMTINO m.alto CYUITALELYA c.linar ROMA ostia NATOM c.corcelli TERACYNIA GAETA NAPOLI SALERNO POLICASTRO TRANA BARLETA PESCARA ANCONA FAM PESARO RAVENA LORCO UENCIYA	SOLONBRINA ALMATIA cpalis UALENCA TORTOSA TARAGONA BARCALONA NARBONA senter ARLES MARSILIA ANTUGIARI NIUA MONAGO ARBENGA nori SAUONA GIENOUA PISA liuorni PRONBIN m.alto CIUITA c.linar ROMA ostia NATORI c.corcelli TARACINA GAITA NAPOLI SALERNO PANIRO BARASTO PISCARA ANCONA FAM PASARO RAUENA LORYTO uinetja CITA NOUA FLUMEN ZACA SCARDOUA CAGULLA CATARO antiuari ALESIO DURAZO LEPANTO MODOM ALMIRO UOLO SALONICH ASPEROSA MAGARIR garbanei CO.TANTINO	mgibaltar MALEGA SALOBRENIA ALMARIA c d pals UALENSIA TORTOSA TARAGONA BARZALONA ROSES NARBONA mci seuta ARLES MARSELLA ANTIBOLI nissa MONAGO ARBENGA nori SAONA IENOUA PISA LIORNI PUNBLINO montalto CIUITAUECA c de mar ROMA ostia nataui mcercell teracina GAETA NAPOLI SALERNO POLICASTRO TRANA BARLETA PISCARA ANCONA fano PISACO rimeno LORYTO uinetja CITA NOUA FLUMEN ZACA SCARDOUA CAGULLA CATARO ANTIURI DOLCIGNO DURAZO LEPANTO MORO LARMICO UOLO salonich ASPROSA MAROINO GALIPOLI CONSTANTINO	mgibiltera MALICA SELOBIRNIA ALMARIA cdepali UALENZA TARTOSA TERRAONA tamarit BARZALONA ROSES NARBONA mseuta ARLE MARSEGLIA NIZA MONACO ARBENGA nori SAUONA GENOUA PISA LIUORNO PIONBINO malto CIUITA UECHIA c.linar ROMA ostia natoni mcercelli teracina GAETA NAPOLI SALERNO POLUCA TERMINI PISCARA ANCONA FANO PESARO RAUENA lorco UENETIA cita noua FIUMI ZARA SCARDONA RAUSA CATARO ANTIURI DOLCIGNO DURAZO LEPANTO MADO LARMIRO UOLO SALONICHIO ASPROSA MAMARA GALIPOLI CONSTANTINO	MALICA malica SALAMBRA ALMARIA ..pals UALENSIA ..TOSA TARAGONA BARZALONA ROSAS UARBO ..souta ARLES MERSIGLIA ANTIBO NIZZA MONAGO ARBENGA NOLI SANOUA GENUA PISA LIORUA PIUNBUIO malto CIUTNUCHIA c.linar ROMA ostia NATAUI mserclo TERRACINA GAETA NAPOLI SALERNO POLUCA TERNI ..ARLONA PISCARA ANCONA fano PESARO RAUCUA LORCTTE UENCTIA CIUTONOUA FIUME ZARA SCARDONA RAGU CATARO ANT.. D.LIGNO DORACZO LAPANTO MADO MADIRA UOLO SALONICA ASPROSA MARAINA GLIPOLI C.TINOPOLI SISOPOLI miasca	6 Barcelona 7 Rosas Narbonne Sète 8 Arles 9 Marseille Antibes 10 Nice 11 Monaco Albernga Noli 12 Savona 13 Genova 14 Pisa 15 Livorno Piombino Montalto di Castro Civitavecchia C.Linaro 16 Roma Ostia Nettuno M.Circeo Terracina Gaeta 17 Napoli 18 Salerno G.di Policastro 19 Trani Barletta 20 Pescara 21 Ancona fano 22 Pesaro 23 Ravenna Loreto 24 Venezia 25 Fiume(Rijeka) 26 Zara(Zadar) 27 Scardona(Splito) Ragusa(Dubrovnik) Cattaró Antinari Pell i Drinit Durazzo(Durrës) Lepanto(Navpaktos) 28 Moton(Methóni) 29 Lamia 30 Vólos 31 Saloniki(Thessaloniki) Abdera ? 32 Maroneia 33 Gallipoli(Gelibolu) 34 Constantinople (Istanbul) 35 Sozopol 36 Messenber(Nesebur)
sisopolli [MESEMBER]	SYROPOLI mesembre	SISOPOLI MASENBAR	sisopolli MISENBRA	sisopolli MISENBRIA	SISOPOLI miasca	

表2 ポルトラノ型海図に記された都市名 (アフリカ)

カタロニア図 (1375)	D. オーメン図 (1561)	ミロ図 (1586)	マルティネス図 (1591)	ヴォルティウス図 (1593)	「地中海図」 (16c 後半)	現在の地名
tanger	tager	TANGIER	TANGIR		..ANGLIRA	Tanger
SEPTA	SEPTA	XEUTA	SEUTA		SEITA 37	Seuta(Ceuta)
TERGA	TARGA	TARGAN	TARGA	TARGA	TARGA	Tetouan ?
BEDIS	LEDIS	BELIS	BELIS	BELLIS	BELLIS	Badis
LALCUDIA		larchudia	ALCUDIA	ALCODIA	ALCODIA	Alcudia
MILLELA	MELILA	MILILA	MELILLA	MELILLA	MILILLA 38	Melilla
ORAM		ORAN		ORANO	ORAN 39	Oran
ARZEU	orzeo	ARZAO	ARZEO		ARSEU	Arzew
MOSTEGANI	MOSTEGARI	MOSTAINAN	MASTAGANJ	MOSTAGAN	MOSTAGAN 40	Mostaganem
TENES	TENEYE	TENESA	TENES	TENES	TENES	Ténès
BRISCH	BRISOBA	birsa	BRISOB	BRISC	BRIEZ	Brischa(Bissa)
CERCEL	CERALI	CIRCELI	CIRAEIS	CERCEL	carser	Cherchell
cap de lalbatal	c:dobatar	c:bacri	c dalbatall	c:batar	c:dartatal	
caxines	carine	crinico	carines		caxina	Kolêa
ALGER	ALGER	ALGIAR	ALGER	ARGER	ALGER 41	Alger
metifux	metiplus	men lris	mentica	c:matafus	m..oteca	C.matifou
berengero	berengero	baringerato	benigenat	benigent	benigcm	C.de Bordj El Bahri
TEDELIS	TIDELIS	TINDELIS	TADELIS	TADELLIS	TADELLIS	C.Tedlès
BUGIA	BUGIA	BUCIA	BUGIA	BUGIA	BUGIA 42	Bougie(Bejaïa)
golf de bugi	g.de bugia		c d bugia	c:bugia	c:debngu	G.de Bougie
GIGER	GIGERI	GIGAR	GIGER	GIGER	cigict	Jijel
aucol			ALLCOL	ALCOLLO	LACOLLO	Collo
STORA	STORA	STARA	STOCA	STORA	STORA	Stora(Skikda)
doe solor	c:derosa	dosoror	docsolor	dascolor	c:dislorta	
BESERT	BISERTE	BISARTA	BIZERTA	BISERTA	BESORTA 43	Bizerte
TUNIS	TUNES	TUNESI	TUNIS	TUNISI	TUNIS 44	Tunis
cabon	c:boni	C.BON	c bono	c:bono	c:bona	C.Bon
maometa	maomet	MAUMETA	MAOCARTA	MAOMETTA	MAONICTA	Hammamet
SUSSA	SUSA		SUSSA		SUTSA	Sousse
AFFRICHA	AFRICHA	AFRICHA	AFRICA	AFRICA	AFRICA 45	C.Afrique(Mahdia)
capulia	capula	tapula	la capula	capullia	capull	Rass Kaboudia
SFACHIS	facuke	SFASE	FACHS	FACHS	ALFACH	Sfax
illes de frixols	i de froxolis	FRSOLIS	illa d frixol	y de frisoli	ill d frisole	
CAPIS	CAPSA	CAPSI	CAPIS	CAPIS	CAPIS 46	Capisi(Gabès)
muroto	muroto	muroto	muroto	marotto	maratto	Mullahat al Burayqah
TRIPOL DE BARBARIA	TRIPOLI	TRIPOLI	TRIPOLI	TRIPOLI DE BARBARIA	TRIPOLI DI BARBARIA	Tripoli(Tarabulus)
			NAYM	NAYM	NAIM	Nayim
lichodia		LICUDIA	licodia	licodia	lasidra	Al Sidar
salines	salinu	SALINE	salines	salini	SINAIN	Sirte(Surt)
milel	milel	milel	milell	milel	millel	
BEYNICH	BONAODA	BORNICH	BERNICO	BERNICH	BERINO 47	Bernich(Benghazi)
taocara	toachara	tarhora	trocara	tocura	..ocara	Tocra(Tukrah)
TOLOMETA	P.TOLOMETA	TOLOMETA	TOLOMETA	TALOMETA	TALOMETTA	Tolmaide(Tulmaythah)
BONANDREA	BONADUA	BONANDREA	BONANDRJA	BONANDRIA	BOUADRIA	Bonandrea(Al Bayda)
..celli	forceli	forceli	forcelli	f..	farselli	
porte de ..	p:trabue	p:trabucho	p:d trabuch	p:trabuco	pod trabuco	Tubruq
LUCH	LUCHO	LUCHO	LUCHO	LUCO	LUCCO 48	Luco(Lukk)
ALEXANDRIA	ALISANDRIA	ALESANDRIA	allixandria	ALISANDRIA	ALISANDRIA 49	Alexandria
flum ra.t	ROSEO	ROSETO	ROSSETTO	ROSETTO	ROSALTO	Rosetta(Rashid)
DAMIAT	DAMIATA	DAMIATA	DAMIATA	DAMIATA	..AMITA 50	Dumyat

表3 ポルトラノ型海図に記された都市名(レヴァント〜小アジア)

カタロニア図 (1375)	D. オーメン図 (1561)	ミロ図 (1586)	マルティネス図 (1591)	ヴォルティウス図 (1593)	「地中海図」 (16c 後半)	現在の地名
ESCHALON	SOALONA	SRALONA	ESCALONA	SCALONA	SOALENA	Ashqelon ?
JAFFA	GIAFA	ZAFO	ZAFFA	ZAFFO	JAFFA	51 Jaffa(Tel-Aviv-Yafo)
arzuffo	arzuffo	arcichufo	araiffo	arzuffo	..saffa	
ACRE	ACLYE	ACHRI	AC	ACRE	SPISOUA	52 Acre(Akko)
SUR	SUR	SURO	SUR	SUR	SUDA	Sotr
BARUT	BARUTI	BARUTI	BARUTI	BARUTTI	BARUT	53 Beirut
tripolli de suria	TRIPOLI	TRIPOLI	TRIPOLI	TRIPOLI DE SURIA	..POLI	Tripoli(Tráblus)
lalitxa	LALACHIA	LA LICA	LALITRA	LALIZA	LATILA	54 Latakia(AI Laddhi qlyah)
porto uallo	p.balo	p.puallo	p.puallo	p.puallo	p.puchio	
SOLAM ?	SALDIM	SALROINE	SOIDI	SOLDIN	SOLDIN	Samandag
alexandreta	ALESANDICTA	ALISAN..	alexandreta	alisandreta	ALISANDICLA	55 Alexandretta(Iskenderun)
layazo	LAISA	LAGIACA	LAYASSA	LOIAZO	LAIASA	Laiaza(Yumurtalik)
CURCO	CHURCHO	CHUCCO	CURCHO	CURCO	CURCO	Curcho(Sarikavak) ?
		la bagasa	lengua de bagasa	lingua de bagaxxa	laigua de bagasa	56 Bagase Br.
papadolla	PALOPOLI	PALIOPOLI	p.padolla	p.padola	p.padua	
insula de oliue	idoliue		oliua		oliua	Ovacik Br. ?
ANTIOCETA	ANTIOCHIA	ANNOCHIA	ANTJORA	ANTIOCA	ANTIOCIA	57 Antiocheia(Gazipasa)
satalea ueya	satalia luecha	satalia da	satalia uerca	satalia uechia	satalia	Satalia(Antalya)
SATALLEA	SATALIA	SATALIA	SATALIA	SETALIA	SATALIA	58 Satallia(Antalya)
MACRI	MACZI	MACHRI	MAGRI	MACRI	MAGRA	Macre(Pethiye)
messi	mesi		MESSI	MESSI	MASI	Milas ?
ALTO LOGO	PALATORIA	PALANO	PALATIGA	PALATIGOA	PALATOGA	
lacolici	ALTO LOGO	ALTO LAGO	ALTO LAGO	ALTO LOGO	ALOTOCHO	
LANDERMITI	lauchio		lauro	lacolica	laziro	59 Lesmire(Izmir)
CASTELLE	LANDENUTRE	LANDEMITI	LADENITI	LADRIMITI	LADANITE	60 Landremiti(Edremit)
SINOPI	CASTELE	CHITOREZ	CASTELS	[CASTELLAS]	CASTELLAS	Catalagzi ?
	SINOPI	SINOPI	SINAPI	SINOPI	SENOPI	61 Sinop

表4 ポルトラノ型海図に記された島名および都市名(島 嶼)

カタロニア図 (1375)	D. オーメン図 (1561)	ミロ図 (1586)	マルティネス図 (1591)	ヴォルティウス図 (1593)	「地中海図」 (16c 後半)	現在の地名
MAIORCA	MALLORCA	maglorica	MALLORQUES	MAIOLICA	MCARORCA	62 Mallorca
soler			SOLLAR		SOLLORA	Soller
mao	mam		MAO	p.mao	MAON	63 Mahón(Menorca)
CALUI	calui	chalui	CAL	CALUI	CARNI	Calvi
BOSSA	BATRA	erbalonga	BONIFA	BASTIA	BASTIDA	64 Bastia
URISTANY	bacsa	bossa	BOSA	BOSA	BOSA	Bosa
CALLARI	ARESTANI		ORISTAI	ORISTANO	ORISTAN	65 Oristano
carbonyre	CALARIA		CALLARI	CAGLIERI	CALLARI	66 Cagliari
PALERMO	corlcina		cicarbo	c:carbonaro	carbonci	C.Carbonara
MESINA	palerin		MESSINA	PALERMO	PALORMA	67 Palermo
scalagrega	MESINA	mesina	SARAUSA	MESSINA	MESSINA	68 Messina
malta	SARAGOSA		MALTA	SARAUSA	SAIAG	69 Siracusa
curfo	MALTA	malta	CORFFU	MALTA	MALTA	70 Malta
ciffalunia	CIUFO	chorfv	XIFALONIA	CORFU	corfo	71 Corfu(Kérkira)
[lime]	ZAFOLANCA	oefalonia	STALIMINO	ZIFALONIA	cisalonía	72 Cephalonia(Kefallínia)
[mitilino]	STALMUCCI	limne	METELI	limno	SLIMNO	73 Límnos
[sio]	SYO	mitelin	XIO	METELINO	MITILINO	74 Mitilíni
[sxamo]	SAMA	sio	XAMO	SIO	XIO	75 Chíos(Khíos)
can[dia]	CANEA	samo	CANIA	SAMO	XIAMO	76 Sámos
scarpanto	CANDIA	canea	CANDIA	CANEA	CANIA	77 Canea(Khanía)
RODUS	SCARPATO	candia	SCARPANTO	CANDIA	CANDIA	78 Candia(Iráklion)
FAMAGOSTA	RODY	scharpanto	RODI	SCARPANTO	SCARPANTO	Scarpanto(Kátrpathos)
	FAM		FRAMAGOSTA	RODO	RODO	79 Rhodes(Ródhos)
				FAMAGOSTA	FAMAGUSTA	80 Famagusta

(注)・地図上の赤色地名は大字で、黒色地名は小文字で示した。ただし、ミロ図の島嶼に関しては、ファクシミリアトラスに収録されているポルトラノ型海図とは別の地図から地名を引用したため、地名の色分けはなされておらず、すべて小文字で示さざるをえなかった。

- ・カタロニア図の欄にある [] は、ドゥルサート Dulcert によるカタロニア図 (1339年) から引用した¹⁹⁾ものである。
- ・「地中海図」の欄の地名の後に示した数字は、図2中の番号と一致する。
- ・現在の地名の欄で () 内に示した地名は、現在の呼称である。また、比定した地名に疑問が残るものには、地名の後に ? を付した。
- ・判読不可能な文字については、..で示した。
- ・省略文字については、以下のとおりである。Pta=岬 (スペイン語)、C.=岬、M.=山、G.=湾、Br.=岬 (トルコ語)。

たマッサリア(ローマ時代以降、マッシリア)はローヌ川河口東端に位置し、天然の良港と周囲に丘陵を有する天然の要塞を兼ね備えていた¹⁶⁾。15～16世紀頃は、港湾都市としてやはり名高いアルルとも競合していたが、より大型の船が入港できるマッシリアの方が一歩抜きんできていたようである。「地中海図」に描かれているローヌ川河口の北方の水辺を囲むように広がる都市の鳥瞰図には、湾の出入口に対峙する二つの要塞があるが、これがマルセイユのサン・ジャンとサン・ニコラの二要塞と想定しうる。フランシスコ・オリヴァの図(1603年)やフランソワ・オリヴ François Ollive の図(1662年)¹⁷⁾の周囲に描かれたマルセイユの鳥瞰図などとも類似している。中世においても重要であったこの都市だけが、「地中海図」に描かれたものであろうとするのが筆者の解釈である。

その他、フランスの海岸部の都市名としては、*arles* (アルル, 8), *nizza* (ニース, 10), *monago* (モナコ, 11)などが判読される。

イタリア半島には、半島の西側のつけ根から北に向かって内陸に *MILAN* (ミラノ), *FERRARA* (フェラーラ), *PADVA* (パドヴァ), *VINECTIA* (ヴェネツィア) の地方名ないしは国名が、半島部には *TOSEANA* (トスカナ) と、大書された *ITALIA* (イタリア) の地方名が見られる。長靴型のイタリア半島の足首から足先にあたる部分は、海図が二つ折りされる際の折り目となったためか、海岸線の輪郭・地名ともに判読不可能である。都市名としてはティレニア海側に、北西から *sanoua* (サヴォーナ, 12), *genua* (ジェノヴァ, 13), *pisa* (ピサ, 14), *liorua* (リヴォルノ, 15), *roma* (ローマ, 16), *napoli* (ナポリ, 17), *salerno* (サレルノ, 18) などが読み取れる。さらにアドリア海側には、南から *terni* (トラニ, 19), *piscara* (ペスカラ, 20), *ancona* (アンコナ, 21), *pesaro* (ペザロ, 22), *raucua* (ラヴェンナ, 23), *uenctia* (ヴェネツィア, 24) の地名がみえる。なおティレニア海側では、航海時の目印となる山や岬も記されている。

アドリア海東岸の現クロアチア共和国の領域には、

fiume (フィウメ, 現リエカ, 25) や *zara* (ザダル, 26) などの地名が見いだされる。また、現在は廃墟と化しているダルマチアの都市 *scardona* (スカルドン, 現スプリート, 27) の名もみえる。

さらに、現在のギリシアの範囲では *lapanto* (レパント, 現ナフパクトス, 28), *salonica* (サロニカ, 現テッサロニキ, 31), *maraina* (マロニア, 32) などの地名が判読できる。

バルカン半島の北側には、*ALBANIA* (アルバニア), *SCLAVONIA* (スラヴォニア), *D—LMATIA* (位置に問題があるが、ダルマチア), *ROMANIA* (ルーマニア), *VALACHIA* (ワラキア) の地方名がある。また地図の北の端には、*RVSSIA* (ロシア) の名がみえ、ダーダネルス海峡には *gllipoli* (ガリポリ, 現ゲリボル, 33) がある。黒海への出入口には *c.. tinopoli* とあるが、もちろんこれはコンスタンティノープル(現イスタンブル, 34)を指すものであろう。

(2) アフリカ

北アフリカの沿岸部には多数の地名が記されている。まず、地方名としては *REGNUM FESS* (フェス地方), *REGNUM MAROCCO* (モロッコ地方), *REGNUM TRIMISEN* (トレムセン地方), *R—NUM ALGER* (アルジェリア地方), *REGNUM TVNIS* (チュニス地方), *TRIPOLI DE BARBARIA* (バルバリのトリポリ), *REGNUM BARCA* (バルカ地方), *ALISANDRIA DE EGIPTV* (エジプトのアレクサンドリア), などが判読できる。ところで、チュニスの南にある *REGNUM NVBIA* はナイル川流域のヌビアをここに位置させたものであろう。また、ナイル川中流部には *F NILV* の地名があるが、これは *Fluvius Nilus* (ナイル川) を意味すると考えられる。さらに上流部の、*R—GNVM GVFRAN*, *CAIPY*, *ETIOPIA* の地方名については、*ETIOPIA* はエチオピアで自明であるとして、その他の地方名のうち、*CAIPY* は表記からはカイロであろうがその位置は大きく南にずれている。地図の下縁に沿って大きく書かれた *BAR BARIA* (バルバリ) の文字は、アフリカ内陸部の情報の欠如を物語っている。

一方、ナイル川は、三つに分流して地中海へと注ぐ大河川として描かれているが、支流の中にはシナイ半島方面から発しているものもあり、確かな情報のみに基づいて描かれたとは考えがたい面もある。河口の北の海中に描かれた三つの島は、デルタ部分の分流によって生じた中洲を描いたものであろう。アフリカ北岸には西端から, *seita* (セウタ, 37), *mililla* (メリリヤ, 38), *oran* (オラン, 39), *alger* (アルジェ, 41), *tunis* (チュニス, 44) などの都市名がある。エジプトの海岸部には *lucco* (ルコ, 48), *alisandria* (アレクサンドリア, 49), .. *zmita* (ダミエッタか?, 現ドゥムヤート, 50) などの地名がみられるが、リビア付近の海岸地名は読み取れないものが多い。

以上がアフリカにみられる主だった地名であるが、ヨーロッパに比べてその数は見劣りがしない。特に、イベリア半島・イタリア半島に近い北西アフリカ(マグリブ地方)とエジプトには多くの地名が集積し、その内容も岬の名称など、航海に関連する地名にまで及んでいる。一方、今日のリビア北岸に記された地名は極めて少ない。リビアはヨーロッパからすれば、地中海沿岸部でも最奥の地であり、砂浜海岸のために港湾も少なく、船が寄港する頻度も少なかったものとみられる。

(3) レヴァント～小アジア

「地中海図」の右縁に沿うレヴァント地方には、地方名は見当らぬものの、数多くの地名が記入されており、南から順に *jaffa* (ヤッファ, 現テルアヴィブ・ヤフォ, 51), *acry* (アッコ, 52), *barut* (ベイルート, 53), *latila* (ラタキア, 現エルラジキヤ, 54), *alisandicla* (アレクサンドレッタ, 現イスケンデルン, 55) などが判読できる。

次に小アジアには NATOLIA (アナトリア), AR-MENIA (アルメニア) の地方名がみられる。また、トロス山脈の位置に記された CARAMAIA はカラマンを指すものであろう。海岸部には, *antiocia* (アンティオケイア, 現ガジパシャ付近, 57), *satalia* (アンタリア, 58) などの地名が、エーゲ海沿岸には、黒色で示

された *laziro* (レズミル, 現イズミル, 59) が、さらに黒海沿岸には *senopi* (シノップ, 61) の名を見出すが、判読できない地名も多い。

(4) 島嶼

地中海に描かれた島嶼を見ると、島名は記されていないが、地中海西部には、バレーレス諸島、コルシカ島、サルディニア島、シチリア島が描かれている。特に、コルシカ島とサルディニア島には寄港する回数が多かったのか, *bastida* (バスティア, 64), *oristan* (オリスターノ, 65), *callari* (カリアリ, 66) の各都市は、やや強調された入江の奥に、いずれも赤色で記されている。また、シチリア島の南に置かれた *malta* (マルタ島, 70) は十字の切り込みが入った赤色の島として表現されている。

イオニア海北東部には, *corfo* (ケルキラ島, 71) や *cisalonia* (ケファリニア島, 72) が黒色で記されている。さらにエーゲ海には、数多くの島嶼が描かれ、まさに多島海の様子を呈している。北から, *slimino* (リムノス島, 73), *xio* (キオス島, 75), *rodo* (ロドス島, 79) の島名が赤色で記入されている。ところで、ロドス島にも先のマルタ島と同様の表現が見られる。エーゲ海南端に位置するクレタ島や地中海東端のキプロス島には島名はないが, *cania* (カニア, 77), *candia* (カンディア, 現イラクリオン, 78), *famagusta* (ファマグスタ, 80) の都市名が記されている。

以上、「地中海図」にみられる主要な地名を紹介した。アフリカ～レヴァント～小アジアにかけての地域には中世以来その名称を変えた都市も多く、また、地図の縁辺部に当っては判読しうる地名にも限りがあった。そのためにこれら地域に関する地名考証は十分なものとは言えない。

V. 「地中海図」の作成年代

「地中海図」の記載内容から特に次の諸点が注目される。

(1) 先述のとおり、ポルトラノ型海図には中心に一

つとその周囲に16の方位盤があり、それらの方位盤からは原則として、それぞれ32本の航程線が周囲に発せられている。しかし、中心の方位盤から発する航程線は、初期のポルトラノ型海図においては、本来の目的が周囲の方位盤の位置を設定することにあつたために、その数はこれら16の二次的中心とをつなぐ16本に限られていた。これが、32本になるのは15世紀半ばのことである¹⁸⁾。ところで「地中海図」の中心方位盤の航程線は32本であるため、少なくとも15世紀後半以降のスタイルに属すると考えられる。

(2)「地中海図」では、海岸線は一般に黒インクで描かれているが、一部の島や半島の海岸線にはさらにその上から他の色が彩色されている。西から順にマヨルカ島・シチリア島・ペロポネソス半島およびキプロス島(以上、緑色)、コルシカ島・サルディニア島・エビア島・クレタ島(以上、赤色)がこれに該当する。これは、1426年のベッカリ B. Beccari の図に初めて出現した手法であり、それ以前のポルトラノ型海図ではその例をみない¹⁹⁾。

(3)先述のとおり「地中海図」では、装飾を施した14の方位盤のうち、左上の一つと下部の二つにフランス王家の「とさか」型の「ユリの紋章」が飾られている。ユリはライオンや鷲とともにヨーロッパの三大紋章の一つに数えられているが、ポルトラノ型海図への導入は、1486年のフランスによるプロヴァンス併合をみた後の16世紀以降のことである²⁰⁾。この装飾は最初はカタロニア型に登場し、後にはイタリア型の海図にもみられるようになる²¹⁾が「地中海図」のようにユリを細長く描くのは、ヴィンター H. Winter によればカタロニア型の特徴であるとされる²²⁾。

(4)「地中海図」ではロドス島とマルタ島が、中央に白十字を浮かび上がらせた赤地一色で塗り込まれていて印象深い(図2中、70・79の島)。

十字軍時代に誕生した騎士団の一つに聖ヨハネ騎士団がある。聖地エルサレムの巡礼者の安全確保や負傷者の治療などのほか、聖地の保持・防衛がその主な事業であったが、敗れて本拠地から撤退した

後は、キプロス島を経て、1308年にロドス島にその拠点を移した。この騎士団がすでに1130年に、ローマ教皇インノケンティウスII世より下賜されていた軍旗の図柄が赤地に白い十字架である。すなわち、「地中海図」のロドス島の表現は聖ヨハネ騎士団の軍旗の図柄そのものであり²³⁾、ロドス島の領有状況を示すものである。

ロドス島に本拠を構えた聖ヨハネ騎士団は、医療事業に従事する傍ら海賊業にも携わった。あたかもこの時期に興起し、勢力を広げつつあったオスマントルコ帝国は、1480年に大軍をロドス島に送った。この襲来にはよく抗しえたものの、1521～22年のスレイマンI世による執拗な攻撃には衆寡敵せず、聖ヨハネ騎士団はその軍門に降ることとなる。翌23年、騎士団はついにロドス島を後にし、新たな拠点をマルタ島に定め、1530年よりマルタ騎士団として再出発した²⁴⁾。「地中海図」のマルタ島に描かれた赤地・白十字も、聖ヨハネ騎士団の軍旗に由来し、その領有を表すものである。

時代を異にし、相互に相容れないロドス島とマルタ島の領有状況が、一枚の地図に図示されているのは確かに奇異であり、矛盾に満ちている。ただこのような矛盾は前出のフランシスコ・オリヴァ図(1603年)²⁵⁾にもあり、依然としてロドス島に赤地・白十字を描き入れている。

古今東西を問わず、不名誉・不都合な事柄は容認しがたいとするのは一般的な心情である。ポルトラノ型海図の製作は主として、キリスト教徒であるヨーロッパ人の手になっていた。聖ヨハネ騎士団の惨敗に終わったロドス島攻防戦(1521～22年)は、キリスト教徒にとってはまさに容認しがたい出来事であった。すなわちロドス島の図柄は当時のキリスト教徒のこの島に対する思い入れの反映とみることができよう。一方、マルタ島は、聖ヨハネ騎士団の後身、マルタ騎士団が1565年のトルコ戦で勝利を収めた地である。それゆえ、マルタの図柄に誇らしげに聖ヨハネ騎士団の軍旗が登場することは当然であった。

以上の諸点を総合すれば、中心から発せられる航程線の本数、海岸線の彩色などの表現様式から、「地中海図」は少なくとも15世紀中頃以降の製作と判定できる。さらには、地図中のロドス島・マルタ島の扱いからすれば、「地中海図」の作成年代は、ロドス島を撤退した聖ヨハネ騎士団がマルタ島移住を完了した1530年以降、おそらくはトルコとの因縁の対決で勝利した1565年以降と考えられる。

VI. おわりに

わが国に現存するポルトラノ型海図としては、日本近海、東南アジア海域のものがよく知られている²⁶⁾。しかし、京都大学文学部所蔵「地中海図」に関しては、『京都大学文学部博物館図録』など²⁷⁾でその存在が紹介されていたが、その内容が本格的に吟味されたことはかつてほとんどなかった。筆者は、古地図を研究対象とする立場から、幸いにも、このたび、「地中海図」に接する機会を得、本稿において、その特徴を述べ、地名判読や作成年代の考証を試みた。しかしながら、保存状況が最適でなかったことにも起因して、地名の判読には限界があり、地名から「地中海図」を十分に評価するには至らなかった。また、地図自体にも作成過程に未着手の部分があったと考えられる²⁸⁾ところから、製作者や製作地に結び付く十分な手がかりを見出すことも不可能であった。近い将来、赤外線写真等による方法で地名を詳読することにより、これらの点が解明されることを期待する。本稿が、「地中海図」研究にいささかの貢献があったとすれば幸いである。

(大阪市立南高等学校)

〔注〕

- 1) Campbell, T., (1987): 'Portolan Charts from the Late Thirteenth Century to 1500' (Harley, J.B. and Woodward, D. eds.: *The History of Cartography Vol.1*, The University of Chicago Press), pp.371~463.

Tooley, R.V., (1949): *Maps and Map-Makers*, B.T.Batsford, pp.9~18.

- 2) Woodward, D. (1985): 'Reality, Symbolism, Time and Space in Medieval World Maps,' *A. A. G.*, 75-4, pp.510~521.
- 3) 清水廣一郎 (1976): 中世ガレー船覚書、一橋論叢, 76-6, 582~601頁。
- 4) Campbell, T., (1987): 前掲1), p.378.
- 5) 前掲1), p.378.
- 6) 前掲1), p.387.
- 7) 織田武雄 (1974): 『地図の歴史 世界篇』, 講談社, 73~76頁。

Nebenzahl, K., (1986): *Maps of the Bible Lands*, Times Books, p.164.

- 8) 前掲1), pp.392~398.
- 9) 京都大学文学部編 (1987): 『京都大学文学部博物館図録』 京都大学文学部, 70頁。

上記以外に、神戸市立博物館編 (1983): 『古地図にみる世界と日本』 神戸市健康教育公社, 115頁, では、地図のサイズは、縦53.0cm×横74.5cmと紹介されている。

- 10) Nordenskiöld, A.E. (1897): *Periplus* (Bather, F.A. trans.), Stockholm, p.69.
- 11) 河川名の後の () 内の英小文字と図2中の記号は一致する。
- 12) La Roncière, M. and Jourdin, M.M. eds. (1984): *Les Porutulans Cartes Marines du XIII^e au XVII^e siècle*, Office du Livre, p.295.
- 13) Winter, H., (1950): 'A Late Portolan Chart at Madrid and Late Portolan Charts in General,' *Imago Mundi*, 7, pp.36~46.
- 14) 表1~4に示した地名については以下の文献を参考にした。

①カタロニア図とヴォルティウス図

Nordenskiöld, A.E. (1897): *Periplus* (Bather, F.A. trans.), Stockholm, pp. 25~44.

②D.オーメン図

Hernández, F.L.M. ed. (1975): *Atlas de Diego Homen 1561*, Altamira Rotopress, p. 61.

③ミロ図

Zögner, L. com. (1988): *World Atlas of*

Antonio Millo 1586, Acta Humaniora, p. 100.

④マルティネス図

Tato, J.F.G. (1955): 'An Unpublished Atlas of J.Martinez (1591),' *Imago Mundi*, 12, pp. 106~126.

②と③については、ファクシミリアトラスより筆者が判読した都市名に基づき表を作成した。

また、現在の地名と比定する際には、以下の地図帳および地図を主として利用した。

人文社(1994):『グランド新世界大地図』全教出版, 167頁。

Bartholomew, J.(1987): *The Times Atlas of the World*, Comprehensive 7th edition, Times Books, p.228.

Leisering, W.(1979): *Putzger Historischer Weltatlas*, Cornelsen Verlag, p.156.

Italian Hydrographic Institute(1988): *International Chart Series*, Mediterranean Sea (Western Part-No.4301, Eastern Part-No. 4302), 1:2,250,000, Taunton.

前掲1), Fig.19.2, p.379.

なお、手書き文字の判読の指標として以下の辞書を参考にした。

Cappelli, A.(1987): *Dizionario du Abbreviature*, Ulrico Hoepli, p.531.

15) 前掲10), p.30.

16) Halsey, W. ed.(1986): *Collier's Encyclopedia*, Vol.15, Macmillan Educational Co., pp. 445~447.

瀬原義生(1972):『ヨーロッパ中世都市の起源(二)』, 立命館文学, 32, 41~96頁。

17) 前掲12), p.68, pp.89~90.

また、ブラウン=ホーヘンベルクの都市図帳にあるマルセイユの鳥瞰図に描かれた要塞や林立する風車群の表現とも酷似している。

Goss, J. (1992): *Cartes Anciennes des Grandes Villes D'Europe*, Solar, p.143.

邦訳にゴス, J (小林章夫監訳) (1992):『ブラウンとホーヘンベルクのヨーロッパ都市地図』同朋舎出版, 128頁がある。

18) 前掲1), pp.396~397.

19) 前掲1), p.398.

20) 前掲1), p.374.

21) 前掲1), pp.392~398.

22) 前掲13), pp.36~46.

23) レオンハート, W. (須本由喜子訳) (1979):『西洋紋章大図鑑』美術出版社, 366頁。

24) 橋口倫介(1994):『十字軍騎士団』講談社, 331頁。

25) 同様の表現は、クレッセンティオ図(1601年)にもみられる。前掲10)。また、ロドス島陥落(1523年)後もロドス島に聖ヨハネ騎士団の軍旗が描かれた例としては、シデリ G.Sideri 図(1565年)がある。前掲12)。

26) 南波松太郎・室賀信夫・海野一隆編(1969):『日本の古地図』創元社, 192頁。

27) 京都大学文学部編(1987):前掲9), 70頁。

神戸市立博物館編(1983):前掲9), 115頁。

28) 一都市のみが鳥瞰的に表現されているポルトラノ型海図は、筆者が知る限りにおいては、他に例をみない。

[付記]

本稿は1988年度関西大学修士論文の一部を加筆修正したものであり、その内容については、1988年度の歴史地理学会大会、1989年度の人文地理学会大会において口頭発表した。地図学史については、織田武雄先生・故矢守一彦先生にご教示賜りました。本稿で取り扱った京都大学所蔵ポルトラノ型海図は、応地利明先生・金田章裕先生・松田隆典先生のご厚意により、貴重な海図にもかかわらず研究させていただく機会を得ました。さらに、金田先生には、京都大学文学部より本論文に写真を掲載する許可をいただく際、お世話になりました。また、地名の比較対照で使用したD.オーメン図を収録したファクシミリアトラスも、金坂清則先生のご配慮で大阪大学よりお借りしました。なお地名判読に際しては、関西大学の新谷英治先生から、近世地中海航海史の視点からの有益なご助言をいただきました。記して深く感謝いたします。そして、永きにわたりご指導いただき、励まして下さった末尾至行先生に心よりお礼申し上げます。